

アメリカに広がる99%の民の声

安田 行純

3月11日以降、アメリカのご縁の地にて「核のない世界」に向かって平和行脚を続けていこうと、原発から原発へと一歩一歩祈りをこめて歩かせていただいています。

今回のグラフトン仏舍利塔十八周年法要はあいにくの雨で、お仏舍利塔の前で法要はできませんでしたが、世界各地からのお坊様方と地元の方々とお寺の中で盛大に集うことができました。No More Fukushima の願いをこめて各宗教者の方々も集まりました。

10月22日から約2週間かけて、カリフォルニアのデアブロキヤニオンの原発からサンフランシスコの近くまで平和行脚をします。今、アメリカは600万人以上の人々が失業しております。国家予算の65%を占める軍事費にはいっさい手をつけず、教育、医療、社会福祉への予算のカットを続ける状況を憂いた人々が、ニューヨーク市のウォールストリートの公園を占拠し始めて、今まで3週間以上になります。こ

のウォールストリートという金融機関のシンボルであり独占企業が集まる場所がすべての富をコントロールしているというところで、この運動が始まり、今、全米200か所以上で同じような占拠運動が広がっています。多いときには何万人の人々が週末に集い、逮捕者も出ていますが、それでも動きは広がっています。占拠はあくまで非暴力をルールとしているので暴動はありません。私たちは先週そして今週の週末に駆けつけて、ともにご祈念しています。

何週間も泊り込んでいる人々もいますが、食事の差し入れ等のオーガナイズもよくできていて、いつもこの公園をきれいに使おうと掃除係のボランティアの人々もいて、よく管理されています。インターネットを通してこの運動が広がっているのも、メジャーのメディアも事実を認めないわけにはいかなくなり、テレビにも大きく報道されるようになり、この運動を支援する動きはますます広がっています。

命を尊重する方向でなく目先の富の優先を追い求める国と電気会社の暴走が、この福島という犠牲になったわけで、このウォールストリートの占拠運動がまた原発を止めていく一つのキーになると思います。

(2011年10月20日 グラフトン)